



ななつこのいし

——いつだって、どこでだって、
謎はすぐ近くにありました。

ふと書店で手に取った1冊の本に一目惚れをしてしまったことはないだろうか。この物語もそのようにして始まる。表紙に惹かれて手に取った童話集「ななつこの」にすっかり魅了された主人公・入江駒子は、作者・佐伯綾乃にファンレターを書く。その手紙に、近所で起こったささいな事件も何気なく書き加えたところ、思いがけず綾乃から返事が。そしてそこには事件についての「想像」で片付けてしまうにはあまりにも論理的な推理が示されており――。

『ななつこの』はタイトルの通り7つの短編から成り、それぞれの章の中で、駒子が遭遇した出来事とそれをめぐる綾乃とのやり取りが、童話集の物語と絡み合って進行してゆく。独立した物語はそれぞれが最後の章への伏線でもあり、長編としても楽しむこともできる。

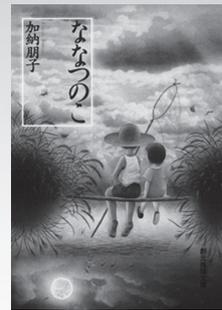
本書は推理小説に分類されるが、扱うのは日常の謎だ。花の塗り絵をすべて白く塗りつぶした少女、デパートの屋上から盗み出された恐竜の遊具――ささいな謎を駒子が拾い上げ、綾乃が軽やかに解き明かす。綾乃の推理はその動機にも及び、導かれた動機は、時にかわいらしく

時に切ない。本書の魅力はなんといてもこの心温まる謎解きだろう。

また、手紙の中で綾乃は事件に対しても、駒子の感じたことに対しても決めつけたり、否定したりしない。そのため読者も気負うことなく読める上に、「ありのままの自分でいてもいい」と言われているようで安心させられる。

さらに表紙も魅力の一つだ。童話集をイメージしたような、田園風景のイラストに惹かれて本書を手に取った人も少なくないだろう。かくいう筆者もその一人だ。どこか懐かしく幻想的な表紙は、本書の「日常の謎」という世界観をよく表している。

寒い冬、心から温かくなりたい人にはおすすめの1冊だ。(家兔)



加納朋子 著
定価 520円
創元推理文庫



ホットチョコレート

作り方

チョコの甘さはお好みで。

材料 (マグカップ1杯分)

板チョコ 半分 (30g)
牛乳 150mL

マシュマロを浮かべて
飲んでもおいしいよ。

- 1 板チョコをできるだけ小さく割って、マグカップに入れる。
- 2 チョコがひたるくらい牛乳を加え、500Wのレンジで1分加熱する。
- 3 レンジから取り出してチョコと牛乳をよく混ぜる。
- 4 残りの牛乳を加え、500Wのレンジで1分半加熱してできあがり。

※加熱の際はふきこぼれに注意しましょう。



はみだし
すてーじ

これを書く頃クリスマスがどうこう言ってる人は、今頃バレンタインがどうこう言っているに違いない。(工・4まる) →まさにその通りとなっています。(泣)。(非リアの聞いは終わらないのです；編)